

(別紙1) 本シートは平成27年5月以降に学内外へ公表されます。

平成26年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		Franck DELBARRE		所 属		法文学部国際言語文化学科ヨーロッパ言語文化		職 名		講師	
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成26年度 年度目標設定				業務 ウェイト比 (実績)	平成26年度 年度末自己点検結果				
教育	0.40	授業における教育と準備。フランス学習者の勉強力をつさえる文脈化された文法書の作成。留学支援。海外研修支援。フランス語の資格取得支援。留学から帰国した生徒向けのフランス語サークル開催。				0.40	これらの活動はすべて予定通りに成し遂げました。				
研究	0.40	東フランスにおけるアルピタン語のビュジェー地方方言に関する研究とフランス語の文脈化された文法に関する研究。				0.40	これらの活動も円滑にできました。さらに、琉球大学とコルシカ大学の研究協定の際に行われた講演会において島袋盛世先生との共同発表も実現しました。				
社会貢献	0.01	仏検監督				0.01	今年度は二回参加しました。				
管理運営	0.15	日本フランス語学会委員会(編集部)+沖縄外国文学会委員会(編集)+学生生活委員会(学部長と学生の懇親談開催)+法文学部将来企画委員会+入試委員会				0.15	変わりなし				
進路指導	0.04	ヨーロッパ専攻の3年次の指導教員				0.04	うまく行きました。				
	0.00					0.00					
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 				1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。 				
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。						<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成27年5月以降に学内外へ公表されます。

平成26年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		吉井 巧一	所 属		法文学部 国際言語文化学科	職 名	教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成26年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成26年度 年度末自己点検結果		
教育	0.30	(1)楽しく効果の上がる学習者中心の授業をさらに進め、外国語教育の充実をはかる。(2)各種FD活動の機会を活用し、授業技術のレベルアップに努める。(3)提携校からの留学生を授業補助者として有効活用する。(4)テニス部顧問として学生の指導に当たる。		0.30	(1)Webクラス・ビデオ会議クラスを開講するなど、目標を十分達成できた。(2)各種FD講習会に参加し、目標を達成できた。(3)目標を達成できた。(4)目標を達成できた。		
研究	0.30	(1)各種ドイツ語関係のワークショップ(DaF-Werkstatt)に参加する。(2)「海外文化研修」引率の機会や学会等を利用し、外国語教授法に関する最新の研究資料を収集・分析する。		0.30	(1)目標を達成できた。(2)予定通り、当初の目標を十分達成できた。(3)目標を達成できた。		
社会貢献	0.20	(1)沖縄日独協会理事、沖縄国際大学及び沖縄県立芸術大学非常勤講師として、沖縄県におけるドイツ語・ドイツ文化の普及に協力、貢献する。(2)担当の「インテンシブドイツ語I・II」のクラスを公開授業とする。		0.20	(1)目標を達成できた。(2)目標を十分達成できた。		
管理運営	0.10	法文学部教育委員・進路支援委員としての職務を遂行する。		0.10	目標を達成できた。		
進路指導	0.10	指導教員・進路支援委員会委員として、大学就職センター等を活用しつつ学生の進路指導・就職指導を進める。		0.10	目標をほぼ達成できた。		
	0.00			0.00			
計	1.00			1.00			
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成27年5月以降に学内外へ公表されます。

平成26年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		宮里 厚子	所 属		法文学部 国際言語文化学科	職 名		准教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成26年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成26年度 年度末自己点検結果			
教育	0.40	フランス語の授業では、実践的運用能力の向上を目指した指導を心がけ、特に作文能力が身につくような授業を行うことを目標とする。その他の専門科目では、学生が文学に興味を持ち、作品分析を自ら行えるような授業を提供する。		0.45	「中級仏作文」の授業を提供し、学生の作文能力が身につくよう指導したが、それ以外の授業では、作文に時間を割くことがあまりできなかった。文学に関しては、「フランス文化研究」で文学研究を行い、学生がある程度作品分析の仕方を学べるような授業を行った。その他、来年度の「海外文化研修」実施に向けて、事前説明会の開催、協定校との交渉等を行った。			
研究	0.30	「沖縄・琉球をめぐる欧米のトラベルライティング」に関する科研に研究分担者として参加し、今年度はまとめの年として、フランス語資料の翻訳と分析を行う。今年には特に、来琉フランス人が見聞した1840年代から20世紀初頭における琉球～沖縄の変遷に注目して研究成果をまとめる。		0.30	科研の研究では、フランス語資料の翻訳と分析をさらに進め、来年度の報告書出版に向けて準備を進めた。また、フランスへ関係資料の収集に行き、来日した宣教師が撮った写真等の所在を確認した。			
社会 貢献	0.10	実用フランス語検定試験において、実施責任者・試験監督としての業務を遂行する。		0.05	実用フランス語検定試験の業務を遂行した。また、来年度からのDELTA試験の沖縄での実施に向けて、学外の担当者と連絡を取り合った。			
管理 運営	0.15	学部教育委員およびURGCO委員を務める。また、専攻内では、入試委員補助、情報システム委員を務める。		0.15	学部教育委員を務めた。URGCO委員会では、ワーキンググループに参加し、評価基準表の導入等について検討した。専攻内では入試委員補助、情報システム委員長を務めた。			
進路 指導	0.05	ヨーロッパ文化専攻2年次の指導教員として、学生に就職・進路情報の提供を行う。また、各自、希望する進路の分野について情報収集等を始めるよう促す。その他、フランス語教員としてフランス語圏への留学希望者への情報提供等を行う。		0.05	専攻2年次の指導教員として、就職・進路情報の提供を行った。また、休学・転学科希望者等の相談・就学指導を行った。フランス語教員として、交換留学希望者の推薦書の作成等を行った。			
	0.00			0.00				
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。		1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。			
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。				

(別紙1) 本シートは平成27年5月以降に学内外へ公表されます。

平成26年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		西森 和広	所 属		法文学部 国際言語文化学科 ヨーロッパ文化講座	職 名		教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成26年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成26年度 年度末自己点検結果		
教育	0.40	以下の科目を担当する。共通科目:前・後期、フランス語科目各3コマ、及び後期に「小説の社会学」1コマ。専門科目:前・後期、フランス言語文化履修コース科目各3コマ及び「卒業論文」。大学院:前期、「フランス文学特論」1コマ。			0.40	すべて順調に完遂した。		
研究	0.30	セルジオ・レオーネ研究を継続する。本年は、ジョン・フォード等の作品からの影響関係についての分析を行い、二本以上の論文または研究ノートを発表する。また共同研究の新フランス語教科書の制作を引き続き行う。			0.23	二本以上の研究論文または研究ノートの公表を目指したが、研究ノート一本に止まった。他方、共同研究の新フランス語教科書の制作に関しては一定程度の貢献ができた。		
社会貢献	0.01	日本フランス語フランス文学会・九州支部運営委員を務める。			0.01	通常業務を行った。		
管理運営	0.28	専攻課程主任、自己評価委員会委員(副委員長)、入試点検委員(以上学部内委員)、国際交流に関する自己点検評価委員、総合情報処理センター広報委員(以上全学委員)を務める。			0.35	特に専攻課程主任として、当初予想よりも多くの時間を割かれる結果となった。加えて、入試面接委員、採点委員、また本学の新規則等の作成に関する学部WG委員も務めた。		
進路指導	0.01	学生演劇部顧問を務める。			0.01	順調に完遂した。		
	0.00				0.00			
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 			1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。 		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成27年5月以降に学内外へ公表されます。

平成26年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		吉田 兼次.	所 属	法文学部 国際言語文化学科	職 名	准教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成26年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成26年度 年度末自己点検結果	
教育	0.40	講義の準備には多くの時間を割く予定である。興味を持たせるための工夫、わかりやすくする工夫を凝らしていく。		0.40	理解しやすい講義を心がけた。概ね成功したと思う。	
研究	0.30	研究論文の執筆を目指す。特に地方雑誌、全国雑誌への投稿・採択をめざす。		0.00	論文の執筆を試みたが、他の業務にかまけて、実現しなかった。	
社会 貢献	0.20	沖縄県公文書館の事業である『ベッテルハイム日誌』の日本語訳を行う。		0.50	沖縄県公文書館の事業である『ベッテルハイム日誌』の翻訳を120ページついて行った。良い訳文が出来上がったと思う。	
管理 運営	0.05	欧米文化領域(院)の主任を務め、入試の指揮を執る。また、英語文化専攻の予算委員長を務め、予算の適正配分・執行を図る。		0.05	領域主任、予算委員長を無難にこなしたと思う。	
進路 指導	0.05	英語文化専攻3年次の指導教員の仕事を行う。修学・進路指導について適切にアドバイスを行う。		0.05	指導教員としての責務を果たしたと思う。	
	0.00			0.00		
計	1.00			1.00		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成27年5月以降に学内外へ公表されます。

平成26年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		宮平 勝行.	所 属		法文学部国際言語文化学科	職 名		教授
領域	業務 ウエイト比 (予定)	平成26年度 年度目標設定			業務 ウエイト比 (実績)	平成26年度 年度末自己点検結果		
教育	0.30	学部及び大学院(前期・後期課程)の講義をシラバスに基づいて計画的に行う。学部教育においては対話を重んじた参加型の講義を目指す。留学生も受講できる英語講義を提供し、日本人学生との交流を図る。大学院教育においては受講生が国際的な視野を養えるように英文の教材を中心とした講義を行う。大学院生(1人)の修士論文指導を丹念に行う。			0.30	合計で13コマ(前期7コマ、後期6コマ)の授業を担当した。学部教育も大学院教育も概ねシラバスに沿って計画通りに進めることができた。学部、大学院いずれも一部の講義は英語で教えることにし、受講生が積極的に授業活動に参加する講義運営ができた。留学生との共学や英語のテキストを用いることで国際的な視野が養える講義運営をした。博士後期課程の大学院生(2人)の副指導教員を務めた。指導した博士前期課程の学生は修士論文が評価され研究科長賞を受賞した。(A)		
研究	0.20	4年目に入る基盤研究(C)「継承沖縄語と大和沖縄語～談話構造とコミュニケーション方略の国際比較研究」を精力的に進める。ブラジル(サンパウロ、カンボグランデ)の沖縄コミュニティにおいて自然会話を収集し、会話分析を進める。9月に行われる危機言語国際学会において研究発表を行う。その成果を論文にまとめて公刊する。			0.20	6月には本学で行われた日本コミュニケーション学会のフォーラムで口頭発表した。8月にブラジル(サンパウロ、カンボ・グランデ)において沖縄県人移民子弟を対象に沖縄語の変容に関する聞き取り調査を実施し自然会話を収集した。トランスクリプトを作成し会話分析を行っている。9月に行われた危機言語国際学会現代沖縄語に関する研究発表を行った。その内容を論文にまとめている段階だが、発行するまでには至らなかった。(B)		
社会貢献	0.10	平成26年度教職免許更新講習の一環として講義(「英語スピーチの基礎と応用」)を実施する。琉球大学欧米文化同窓会の事務局長として学生の育英活動に取り組む。高校生による英語ディベートコンテスト(沖縄県大会及び九州大会)などで審査委員を務める。学外の希望者に対して本学で提供している講義を公開する。			0.10	「英語スピーチの基礎と応用」には11人の受講者が登録し、現役の教員と有意義なディスカッションができた。引き続き琉球大学欧米文化同窓会の事務局長として語学力賞や優秀学生賞の授与など、育英事業に取り組んだ。高校生ディベート大会の沖縄県大会と九州大会で審査委員長と副審査委員長を務め、スキルの向上に尽力した。COCプロジェクト(ちゅら島の未来を創る知の津梁)では県外からの講師招聘や出前講座のコーディネーターを務めた。(A)		
管理運営	0.30	教育改善タスクフォースに法文学部代表として参加し、全学的な教育改善に取り組む。英語文化専攻の教育委員長としてカリキュラムの運営と改編及びFD活動などにおいてリーダーシップを執る。人文社会科学研究科後期課程の広報担当の任務を担う。国際沖縄研究所の運営委員として研究所の運営に尽力する。			0.30	英語系教育委員長として共通教育及び専門科目の教育改善、時間割編成、カリキュラムの運営、FD活動に膨大な時間を割いた。教育改善タスクフォース、法文学部教育委員など、委員会の活動にはほぼ毎回参加し、業務を遂行した。(A)		
進路指導	0.10	学部学生と大学院生の進路相談など、きめ細かな指導を心がける。教育実習に参加する学生を励まし、研究授業へ参加する。学科・専攻が一丸となって取り組む就職・進学に関する啓蒙活動に協力する。			0.10	今年是指導教員を外れたため、直接学生の進路相談に応じる機会は限られていたが、進路関連の情報が学生に行き渡るようにポスターを掲示したり講義で紹介するなどした。専攻全体としては例年になく多くの進路説明会を催した。教育自習に参加した学生による研究授業に参加し学生を励ました。(A)		
	0.00				0.00			
計	1.00				1.00			
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成27年5月以降に学内外へ公表されます。

平成26年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		兼本 円 .	所 属	国際言語文化学科英語専攻	職 名	教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成26年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成26年度 年度末自己点検結果	
教育	0.35	これまでの教材をデジタル化、マルチメディア化する。異文化理解を促進するデジタル教材を収集する。		0.20	夜間主3, 4年次への支援として電子書籍リーダの購入に尽力した。URSEPに一科目提供した。A	
研究	0.35	論文1本研究発表1、その次の論文のためのデータ収集を行う。		0.50	日本コミュニケーション全国大会(琉球大学にて開催)で「復帰」について口頭発表を行った。A	
社会 貢献	0.10	離島の中高校で異文化理解のための講話をする。		0.10	西表の大原小学校、中学校、古見小学校、津堅島公民館でそれぞれ異文化理解に関する講演を行った。日本コミュニケーション学会全国大会の実行委員長を務めた。A	
管理 運営	0.10	言語コミュニケーション領域主任として活躍する。		0.10	大学院前期課程の専攻及び領域主任を務めた。A	
進路 指導	0.10	夜間主3年次の指導教員として進路相談・指導をする。		0.10	夜間主3年次学生の留学相談、進路相談(休学を含む)を行った。夜間主の1・3一泊研修に参加した。B	
	0.00			0.00		
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 		1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。 	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成27年5月以降に学内外へ公表されます。

平成26年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		呉屋 英樹.	所 属		法文学部 国際言語文化学科	職 名		講師
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成26年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成26年度 年度末自己点検結果		
教育	0.25	学生の理解を深める為、興味ある講義への取り組みを工夫する。特に学生中心のアクティブな学習方法を確立させる。			0.30	概ね達成できた。今年度は第三者に講義を観察してもらい、良い点、改善すべき点を確認できた。		
研究	0.25	若手研究者支援を利用した研究の成果を基に、さらに深めた研究を行い、関係する学会・学術誌に掲載されるよう取り組む。			0.20	九州英語教育学会での発表し、その紀要に掲載予定である。また国際的学会において自らの分野での先進的な研究を学ぶことができた。新年度の研究活動につなげていきたい。		
社会 貢献	0.20	教員免許更新講習や、学外に於ける英語教育関係の研究団体での役割を果たす。			0.20	沖縄英語教育学会の事務局長として積極的に活動した。他の研究団体との連携を深めて合同で講師を招聘しての講演会活動を計画実施することができた。引き続き事務局長を引き受ける事になった。		
管理 運営	0.15	各種委員会でのスムーズな運営を目指す。			0.20	人事にかかわるWG活動、FD委員会、予算委員会、教員養成運営委員会に参加する事が出来た。またその他大学運営に関わる業務をこなす事が出来た。		
進路 指導	0.15	学生の教職関係や、留学希望の学生に対してガイダンスや面談を積			0.10	教職関係のみならず、学生の英語力向上の為の面談を複数回行った。また卒業研究を目指している3年生に助言を行う事が出来た。		
	0.00				0.00			
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 			1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。 		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成27年5月以降に学内外へ公表されます。

平成26年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		三原 穂	所 属		法文学部 国際言語文化学科	職 名		准教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成26年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成26年度 年度末自己点検結果		
教育	0.30	「英作文演習」「17・18世紀イギリス文学」などを担当し、学生のニーズにこたえるのみならず、学生を教養面で良い方向に啓蒙する授業を展開するように努力する。			0.30	「英作文演習」「17・18世紀イギリス文学」などを担当し、学生のニーズにこたえるのみならず、学生を教養面で良い方向に啓蒙する授業を展開するように努力した。		
研究	0.40	2014年度には、海外誌に英語の学術論文を投稿するための十分な準備をすると同時に書籍刊行まで取り付ける。			0.40	海外誌への投稿準備はあまり進まなかったが、書籍は来月刊行されることになった。		
社会 貢献	0.05	学会発表において一般の方々にも理解してもらえるような堅くない内容の発表を行うように努力したい。			0.05	本年度は本人が研究発表をするよりもむしろ、学会の運営など裏方の役割を果たした。		
管理 運営	0.20	英語教育委員会の委員として、教育カリキュラムや時間割作成に積極的に携わる。			0.20	英語教育委員会の委員として、教育カリキュラムや時間割作成に十分積極的に関わることができた。		
進路 指導	0.05	主に3・4年生が受講する授業ではこれからの日本社会がいかに厳しいものになるかを示して、社会人として生き残っていくための方策などを社会科学系の著書を紹介して教えていきたい。			0.05	主に3・4年生が受講する授業ではこれからの人生がいかに厳しいものになるかを自覚させ、社会人として生き残っていくための方策などを歴史書などを通して紹介した。		
	0.00				0.00			
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 			1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。 		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成27年5月以降に学内外へ公表されます。

平成26年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前		石原 昌英	所 属		法文学部 国際言語文化学科
			職 名		教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成26年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成26年度 年度末自己点検結果
教育	0.25	<ul style="list-style-type: none"> ・博士課程前期の学生3名(1名は後学期から復学)、及び博士課程後期の学生4名の指導教員として、年次進行に応じた指導を行う。後期課程3年次の学生2名については、草稿提出及び本提出にむけた指導を行う。2年次の学生査読付き論文への投稿を指導する。 ・前期は夜間主のクラスを3科目担当する。「英文和訳演習」「メディアの英語」については、学生が英語を読むだけでなく、考える機会を提供する。「言語学演習」については、学生が日本の言語状況について考える機会を提供する。 ・後期に昼間主で担当する科目では、言語権という概念について、学生に理解させて、それがなぜ重要であるのかを考える機会を提供する。 ・琉球学副専攻の必修科目である「琉球学入門」のコーディネートをするとともに、オムニバス授業に参加し、琉球諸語の危機的状況について講義する。 		0.25	<ul style="list-style-type: none"> ・博士後期課程及び前期課程の学生それぞれ1名が学位審査(論文審査及び最終試験)に合格し、学位を授与された。1名に都合により、休学した。 ・後期課程2年次の学生は、学会誌に査読論文が掲載された。 ・前期は、夜間主コースで3科目を担当した。英語クラスはグループワークで指導し、英語力とディスカッション能力の養成を行った。「言語学演習」では、琉球・沖縄の言語状況について講義し、学生が言語の重要性について理解した。 以上から、目標を達成したと判断したので自己評価は「A」とする。
研究	0.25	<ul style="list-style-type: none"> ※外部資金獲得に向けた取組がある場合には必ず記載ください ・昨年度の引き続き、科研費補助研究(代表山里勝己名桜大学教授)の分担者として琉球およびハワイにおける言語接触について調査し、その成果を論文にまとめる。 ・琉球諸語の危機状況について論文にまとめ、ケンブリッジ大学出版会から出版予定の研究書に投稿する。 ・9月17日～19日に開催される危機言語財団第18回大会で上記の論文を口頭発表する。また、同大会の実行委員長として大会の運営に取り組む。 		0.25	<ul style="list-style-type: none"> ・琉球及びハワイにおける言語接触について文献調査を行った。ハワイ大学ヒロ校のハワイ語学部で、貴重な資料を調査収集した。その成果は、27年度の9月までにまとめる(研究グループでの合意) ・琉球諸語の危機状況と言語復興にむけて取組についてまとめた論文がCambridge Scholars Publishingとココ出版から発行された研究書に採録された。 ・9月17日～19日に開催された危機言語財団18回大会(国際学会)で琉球諸語の活力と危機度について発表した。また、同大会の実行委員会委員長として大会を成功させた。 ・京都の地球研の共同プロジェクトに参加し、国頭村の奥方言の活力と危機度に関して論文を執筆した。プロジェクトの成果をまとめた書籍が27年度に京都大学出版会から発行される予定。 ・文化庁の委託を受けて国立国語研究所が実施したプロジェクト(木部暢子代表)に参加し、沖縄県における言語復興にむけた取組をまとめた論文が報告書に掲載された。 ・6月に開催されたアメリカ学会で発表した。 年度当初に計画されていなかった研究も実施したので、自己評価を「S」とする。
社会貢献	0.05	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度に引き続き、研究分野の言語復興との関連で、沖縄県やその他の委員会等に積極的に協力する。 ・昨年度に引き続き、沖縄県における琉球諸語の復興について、知識の啓蒙をはかる。 		0.05	<ul style="list-style-type: none"> ・言語復興に関する沖縄県の委員会には参加の依頼がなかった。 ・月刊誌や新聞等に投稿し、知識の啓蒙をはかった。 以上の理由で、目標を達成したと判断するので、自己評価を「A」とする。
管理運営	0.30	<ul style="list-style-type: none"> ・副学長(自己点検・自己評価)として、法人評価及び認証評価との関連で全学の自己点検・評価を統括する。 ・上記とは別に、大学評価やIRに関連した職務を遂行する。 ・副学長職で参加する全学教育委員会委員等の職務を遂行する。 ・琉球学副専攻の主任として、円滑な副専攻運営に努める。 		0.30	<ul style="list-style-type: none"> ・副学長(自己点検・自己評価)として、法人評価に関する年度評価を取りまとめた。第2期中期目標・中期計画期間の評価に向けて学内の体制を整備した。 ・8月1日付けで設置されたIR推進室の室長として、全学的にIR活動に取り組んだ。 ・教育研究評議会、企画経営戦略会議、中期目標・中期計画策定WG等の委員を務めた。 ・琉球学副専攻の主任として、共通教育科目の「琉球学入門」のコーディネーターを務めるなど、副専攻の円滑な運営を行った。 以上のように、目標を達成したと判断したので自己評価を「A」とする。
進路指導	0.15	<ul style="list-style-type: none"> ・英語文化専攻夜間主コース4年次の指導教員として、昼間主コース4年次の指導教員および夜間主コース4年次のもうひとりの指導教員と協力して、就職懇談会の開催などを通して進路指導を行う。 ・夜間主コース4年次の学生の履修状況を確認して、適切な履修指導を行う。 ・博士前期課程の指導学生の進路に関して、適切な指導助言を行う。 		0.15	<ul style="list-style-type: none"> ・他2名の指導教員と協力して、就職懇談会等を開催して、進路指導を行った。 ・27年3月卒業を予定している学生の履修状況を確認し、卒業できるように履修指導した。留学等の理由で休学した学生を除いては、4年で卒業予定の全員が卒業した。 ・学生の留学(Working Holidayを含む)相談に応じた。 以上のように、目標を達成したと判断したので、自己評価を「A」とする。
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 		1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成27年5月以降に学内外へ公表されます。

平成26年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前		石川 隆士	所 属		法文学部
			職 名		教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成26年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成26年度 年度末自己点検結果
教育	0.30	(1)大学院前期週1コマ、後期週1コマ、学部前期週5コマ、後期3コマ、計11コマの授業を行う。(他にノルマ外で卒論指導5人) (2)大学院の「アングロアイリッシュ文学特論」、学部専門科目の「イギリス文学研究II」、「イギリス文学演習II」は専門領域である英文学について平成20年度、平成21年度に執筆した論文の研究成果を反映させる。		0.30	予定通り実施した。S
研究	0.30	(1)「風の詩学」に関する研究発表を1件実施し、論文を1本執筆する。		0.05	予定通り実施した。研究発表:「Noli me Tangere: “Nineteen Hundred and Nineteen”における触れる風」(2014.11.9.於日本イェイツ協会第50回大会)。単著論文:「風の詩学: 21世紀の螺旋」、『地域文化論叢』、査読有、第16号、2015。pp. 23-35(沖縄国際大学大学院地域文化研究科)。A
社会貢献	0.10	大学間連携IR事業のシンポジウムを通じて、琉球大学IR事業の進展および英語教育の広報に務める		0.15	予定されたものは実施した。加えて高大接続の出前授業を一件、沖縄県での「第7回英語教育を考えるフォーラム」にて「琉大津梁カレッジ構想から: 英語資格試験を基盤としたグローバルスタンダードの構築」の発表を行った。S
管理運営	0.10	(1)大学教育センター副センター長として全学の共通教育科目の運営にあたる。(2)アドミッション・オフィス実施部門長としてアドミッションオフィスの実施にあたる。(3)入学者選抜方法等検討委員会委員として入試の運営にあたる。(4)大学案内作成WGとして同案内の作成にあたる。(5)法文学部広報委員として法文学部の広報にあたる。		0.40	予定されたものは実施した。加えて、琉球大学の教育体制の再編成としてのグローバル教育支援機構の設置WGのメンバーとして答申を作成した。また。S
進路指導	0.20	(1)卒論担当の学部生に進学、就職についての指導を行う。(3)修論		0.10	予定通り実施した。A
	0.00			0.00	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。		1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成26年5月以降に学内外へ公表されます。

平成26年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		新城 郁夫	所 属		法文学部 国際言語文化学科	職 名		教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成26年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成26年度 年度末自己点検結果			
教育	0.35	①共通教育指導においては、人文学的基礎と大学における研究の動機づけを学生たちに促す。②専門教育科目および大学院教育においては、特に日本近代文学と近現代沖縄文学の関連性についての応用的研究の実践にむけて、指導を徹底していく。		0.35	①、②の目標をすべて達成した。			
研究	0.35	科研費テーマの「戦後沖縄文学に関する思想史的研究」についての研究論文を発表し、同時に、国内外の学術会議やシンポジウム等で、口頭発表を行う。		0.35	論文3本を国内外の学術雑誌に発表し、著書1冊と共著1冊を出版した。。あわせて、国際基督教大での国際学会で発表を行うなど、当初の目標を超える達成があった。			
社会貢献	0.10	大学における社会人公開講座等(共通教育「琉球アジア文化入門」)の機会を最大限に活用し、専門知の地域社会への還元を図り、社会貢献を積極的に果たしていく。		0.10	当初の目標を達成した。			
管理運営	0.10	将来構想委員会委員、およびワーキング・グループ戦略的研究推進専門委員会委員としての仕事を行う。		0.10	当初の目標を達成した。			
進路指導	0.10	卒論指導と大学院進学指導、そして大学院前期(修論)および後期課		0.10	当初の目標を達成した。			
	0.00			0.00				
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。		1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。			
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成27年5月以降に学内外へ公表されます。

平成26年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前		赤嶺 守	所 属		法文学部 国際言語学科
			職 名		教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成26年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成26年度 年度末自己点検結果
教育	0.30	共通教育前期2コマ・後期2コマ、学部前期4コマ・後期3コマ、博士前期課程前期2コマ・後期2コマ、博士後期課程前期3コマ・後期3コマの授業を担当する。2、学士論文・修士論文・博士論文提出者の論文指導をおこなう。		0.30	左記の項目を予定通り全て履行した。
研究	0.30	1、歴代宝案の文書学的研究をおこなう。2、「琉球処分」と久米村について研究をおこなう。3、琉球王国研究文献目録を作成する(5年計画の1年目)。4、冊封関連の研究をおこなう。5、戦後、台湾における沖縄籍引揚者に対するインタビュー調査を実施する。6、台湾大学所蔵「親見世日記」の翻刻作業をおこなう。		0.30	左記の項目を予定通り全て履行した。
社会貢献	0.20	1、歴代宝案調査専門委員会副委員長として歴代宝案関連資料の調査収集をおこない、歴代宝案編集委員として『歴代宝案』第6冊の訳注本の作成に取り組む。2、台北故宮博物院における中琉関係档案史料の編集事業に協力する。3、県立博物館における「久米村展」の企画協力をおこなう。		0.20	左記の項目を予定通り全て履行した。
管理運営	0.10	1、進路支援委員会の委員業務を務める。2、附属図書館沖縄関係資料調査収集専門委員会委員長として関連資料の調査収集をおこない、附属図書館研究開発室員としての業務を遂行する。3、附属図書館における沖縄文献情報ワーキンググループリーダーの業務を遂行する。		0.10	左記の項目を予定通り全て履行した。
進路指導	0.10	就職希望者に対し情報提供及びアドバイスを行う。		0.10	就職希望者に対し情報提供及びアドバイスを行った。
	0.00			0.00	
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 		1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成27年5月以降に学内外へ公表されます。

平成26年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		大胡 太郎		所 属		国際言語文化学科 琉球アジア文化専攻		職 名		教授	
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成26年度 年度目標設定				業務 ウェイト比 (実績)	平成26年度 年度末自己点検結果				
教育	0.30	専門教育(日本古典文学、日本古典語研究)に従事するとともに、教職科目(国語、国語科教育法D、教職実践演習)の授業の充実を図る。				0.30	専門教育(日本古典文学、日本古典語研究)に従事するとともに、教職科目(国語、国語科教育法D、教職実践演習)の授業の充実を図った。				
研究	0.20	古代文学会夏期セミナーにて学会発表し、その成果を論文化し「古代文学」誌に投稿する。 「奄美・沖縄にみる言霊」論文を執筆し、「悠久」誌に投稿する。				0.20	古代文学会夏期セミナーにて学会発表し、その成果を論文化し「古代文学」誌に投稿し掲載された。 「奄美・沖縄にみる言霊」論文を執筆し、「悠久」誌に投稿し掲載された。				
社会貢献	0.20	カルチャースクール「桜坂市民大学 源氏物語の世界」講座を継続して講義する。 沖縄文化協会研究発表大会(於、琉球大学)の実行委員長を務める。 奄美沖縄民間文芸学会大会(於、沖縄国際大学)の実行委員を務める。 学会誌「奄美沖縄民間文芸 15号」の編集委員を務める。				0.20	カルチャースクール「桜坂市民大学 源氏物語の世界」講座を継続して講義した。 沖縄文化協会研究発表大会(於、琉球大学)の実行委員長を務めた。 奄美沖縄民間文芸学会大会(於、沖縄国際大学)の実行委員を務めた。 学会誌「奄美沖縄民間文芸 15号」の編集委員を務めた。				
管理運営	0.10	共通教育人文系科目企画小委員会の委員長として人文系科目の充実を図る。				0.10	共通教育人文系科目企画小委員会の委員長として人文系科目の充実を図った。				
進路指導	0.20	教職(国語)の担当教員として、教員養成、教職指導に努め、教員採用試験合格者の卒業生を招いて、教職履修学生に講話を受講させるなど、教職についての指導を充実させる。				0.20	教職(国語)の担当教員として、教員養成、教職指導に努め、教員採用試験合格者の卒業生を招いて、教職履修学生に講話を受講させるなど、教職についての指導を充実を図った。				
	0.00					0.00					
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。				1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。				
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。						<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。					